夕刊
磐城新聞
十二月九日發行
定價 一ヶ月金五拾錢（郵稅金六拾五錢）
廣告料金 普通欄一行金六拾錢 記事欄一行金九拾錢（場所指定一行壹圓）五號十二字詰
編輯印刷兼發行人 柏木衍 福島縣石城郡平町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八・五六五番

天氣豫報　小名濱測候所發表
今晩は北西の風晴 後曇
明日は北西の風晴 時雨模樣

秋の花三題
木原竜輔

（下）

『そんなに澤山どうするんだネ、途中で乘てたりするんならとらない方がいいせ』

『だつて、此の花好きなんですもの……この、澄んだうすコバルトの色、素敵ぢやない？印象的で、忘れがたい――から、何ていつたらいいかしら？』

『恰度君の樣な感じか？』

『ウフ、仲々上手になつたワネ。昔だつたら、あたし感激してしまふんだけど』

『今では、馬鹿らしいんだらう』

『そんなの、新鮮味が感じられないつて、云ひたいとこネ』

『もう、食傷して居る頃だらかな』

『あたしたちの氣もちが……』

『うん、まあネ』

『何だか、濁つた返事ネ。でもいいワ、ほんとに、もう清算する頃かも知れなワ！』

『いやにシンミリして來たネ、別れも愉しつて云ふ言葉を知つてるだらう？』

『わね、でもあれは反語よどんな仲だつて、別離が愉しい筈がないぢやないの、あたしが古いのかしら？』

『詩人だからだらうよ』

『詩人？ 隨分皮肉ネ。だけど、あんたが、ほんとに心から愉しく別れを告げてくれるんだと、尊敬してもいいけど……』

『君に尊敬されるのは、珍らしいことぢやない。もとは、僕のことなら、どんなんでも尊敬してたんだからな』

『まあ！しよつてるワ。でもさうなると、あたしの方で別れられないし……』

『馬鹿らしい話だネ』

遠い、からまつ林は昏れ色に靜まつて、麓の暗い林に薄々と夕風がざわめき、海上はるかに早い月の出があつた

二人は、銘々に、おそかれ早かれ、口にしなければならない、別離のことばを考へ乍ら、高原の道を、よりそつて降り始めた

はなれ／＼な心に、うそさむい秋風を感じ乍ら……女の手には、もうとうに摘みためたりんどうの花はなかつた

夢
猪狩牧秋

良く霽れた小春だつた
心地よき
輕き散步路
ふと一片の雲湧きて
宿る方なくぬれ冷えて
幻覺して閃く閃踏
茫ばくとたゞ茫漠々々
何にもなかりき

12月10日
△千葉周作歿（安政二）△蓮月尼歿（明治八）△印刷局設置（同一一）△英帝エドワード八世御退位の詔勅下る△獨伊逸商協定成立（昭和一一）

弔武田精一君
淡雲 小野務

談論風發舌縱橫
諷刺導人敦友情
調帳斯君天壽短
郎山落日一鴉鳴

時吟（上）
平華生

○納豆の聲も凍つてブル／＼と
○新世帶冬は駒飯ぬきにして
○二十九の暮を急いで嫁に行く
○南京も間近くラヂオよく直し
○小供等も地圖を擴げて印つけ

小石と五十錢玉
野地たかし

下

けれども、こゝろよい小石の響は、そのような氣持はもう響と共に消されて行くのだつた。そして彼はまたコーンと氣持良げに、小石を蹴つた刹那だつた。チーンと金屬的な響がした時ハツとして、その方向に眼を向けた。彼のゐる三間ばかり前の、銀杏の葉から半分以上顏を出した、五十錢玉が彼の眼に映じた

奇蹟だ、近代の奇蹟だ、彼は偶然の發見にその歡喜をどうする事も出來なかつた。慾心がむら／＼と湧き起つて來た時は、もう彼はあたりに、執拗な警戒の眼を配つた、が前方から小犬が思案顏に、小走りにこちらに走つて來るだけで、誰もゐない事を見てとつた彼は、やつと安堵して、その五十錢玉を拾ひ上げようとしたが、いや待て、誰かが何處かで見てゐないとも限らない。懷疑的な氣持はそれをすぐ拾ひ上げさせようとはしない

そして何事もなかつたかの如く、また小石を蹴り乍ら、小石が途から外れない間、まだ幸福がありさうな氣がして、三吉は圖太い感情にとらはれ乍ら、反省も何も自己の外に置き忘れ、淡々たる幸福に醉ひ乍ら小石をコーンと蹴つた

講談 悲戀 髑髏組（どくろぐみ）
林杢兵衛作　金子士郎畫
（65）繪姿（一）

『まア聞きねえ、俺はお前さんの爲めを思つてやるのぢやが、本當にあの調子ぢや、今にお屋敷に住むようにでもなれば、尙更にお前なんか家風に合はない――とか、なんとかが云はれて捨てられちまふのが關の山ぢや、だから今のうちに考へて、俺の云ふことを諦いておけば……』

そんな話を聞いてゐる必要もないお峰は、默つて戶を閉めると勝手元へおりてサツサと朝の支度にとり掛つた

『チエツ？ 馬鹿な女だ！』

佐治兵衛は、いま／＼しさうに閉つた戸を睨みつけて、尙暫らく其處に立つてゐた

丁度その時、佐治兵衛を見つけて近づいて來た男がある

『此の長屋の差配で、治佐兵衛さんてえなア お前さんかね？』

『な、な、何を？ 默つて聞いてゐりや偉さうに……？』

お峰の未練去り難く……とでも云ふのか、尙、閉つた戸を恨めし氣に見詰めて居る佐治兵衛は、訪ねた男に當りつけてゐる

『おい父さん、馬鹿に豪勢ぢやねえか？ はツはツはツ』

『勝手にしやがれッ！』

吐き出すように云つて、ひよいと振り向くと、岡ツ引矢の倉茂十だから、目玉を白黑させながら頭を掻いた。

『おや、これは飛んでもねえ、矢の倉の親分で御座いましたか、濟みません、御勘辨を願えます』

『まゝ、そんなことはどうだつていゝ、ところで一寸お前に訊きてえ事があつていま家まで行つたところだが！……』

『まア、さうで御座いましたか、それはどうも御苦勞なことで……さうして何か急な御用でも……』

『なアに、別に大した事件でもねえんだが、まゝ、と に角お前んちまで戻らう』

『では御案内を……』

『おツ、ところで俺の用は濟んだのか？』

『いえもう、用と申しましたところで、家賃の催促位のものでして、此の通りまだ此の蝙蝠長屋は寢て居りますので……』

『なに、蝙蝠長屋？』

『へい、親方の前ですが。此の長屋の者は皆んな晝は寢そべつて居りまして、夜にならないと働きませんので……だが、別にお上樣のお手數を煩はすやうな惡いことをする者は一人もありませんから、その邊は御安心を願えます』

『なる程、それで蝙蝠長屋かはツは、だが起して取りたてたらどうか、待つてゐてやるから……』

『なアに、それまでにしないでもよう御座います、また出直して參りますから！！』

『さうか、ちやア氣の毒だが戻つて貰はうか』

佐治兵衛は、茂十と一緒に戻つた

『外の客でもねえんだが！……』

さう云ひながら、懷から半紙を五六枚と、同じ調べ書のやうな物を取り出した

十

佐治兵衛は正面から覗き加減に腰を浮かした

『それはなんで御座います？ 親方』

『これか』と、茂十は二枚目の繪姿をめくり戻した

『女の立姿で御座いますね！』

『さうだ、これが一しきり東海道を荒したあの噂の高い黑猫お峰と云ふ女泥棒だ！』

『さうで御座いますか。女の癖に大それた……それでも此頃はいゝ案配に下火になりましたやうでは御座いませんか』

時代の要求皆樣の足!!
尼子タクシーへも豆タクシーが入りました。
御玄關から玄關へ…迅速簡便
是非御利用を……。
市內…三〇錢　市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
宮行ー直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平市二丁目
尼子自動車商會
電話六四〇番

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します。
福好工業合資會社
代表者 強口唯七郎
自動車部
電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します。

ミシン販賣
◎新品家庭用ミシン各種◎職業用ミシン各種◎中古解体品ミシン各種◎部分品附屬品◎ミシン修繕及び新古交換◎ミシン金融賃貸◎
◎カタログミシン定價表進呈ス◎
平市田町
シンガーミシン會社支店
◎外務社員◎集金人◎小店員採用◎

世界に響け防共萬歳
東北の銘釀
特撰 銘酒 嵐山
山形縣嵐山酒造株式會社釀造
四海に轟く特撰嵐山（トクセンランザン）
平市三丁目
上總屋商店
電話七三一番

御得意樣への御禮に！
パーマネントウエーブは
今や世界的流行であります
お値段（四圓…全部 三圓…普通）（弊院パーマネント部の一部）
◈時間の經濟と能率增進
◈時代の要求するパーマネント
◈今が絶好のチヤンス
現狀維持では……時代に取殘されませう！。
銃後を守る御婦人方への大サービスに
最新の美容法を研究し
その奧義を
修得致して參りました。
御婚禮御氣付　和洋結髮　オリゾン美顏術　美術顏　白赤毛染
水野化粧院
水野冬子
平市驛前 電六七八番
自宅 電五二五番

男女工員募集
東北一の大工場
從業人員四千餘名
製品、人絹、ソーダ、二流化炭素晒粉、過鱗酸
昭和人絹錦工場
男十六才……三十才まで
女十三才……二十五才まで
御入社御希望者は御申込下さい
詳細御通知、又は參上面談
石城郡錦村大倉
鈴木林

外科（內臟外科及一般外科）
X光線科、花柳病
內科、小兒科
院長 前田清美
岩手醫學士 蔦波勳
（自炊ノ便アリ 病室完備）
前田醫院
田町本町電話二二四番

晝夜診療
外科一般 內臟外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
（血液檢査毎日）
イツデモ入院デキマス。
平市新川町（電四六四）
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保

磐城の御みやげ品
名物 靈峰（みやま）羊羹（名產柿煉）
姉妹品
磐城耶馬溪……美山（みやま）羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種一本十錢
製造發賣元
小川郷驛前
平屋賣店

和洋
建具 家具 テーブル 椅子
其他裝飾品一般
御用命は迅速に御勞め致します。
諸官衙 各學校 御用達
製作販賣
平市五丁目四
片寄製作店
片寄小彌太
電話四八四番
十五、六歲以上の見習徒弟募集
御希望の方は至急申込下さい。

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平市田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社石油特約店
關彰商店平支店
福島縣平市支店二丁目（電話六十一番）
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
支店 茨城縣土浦町田宿 電話六五三番
茨城縣久慈町 電話一三七番
茨城縣多賀郡關本驛前 電大津一四七番
福島縣四倉驛前 電平潟五四番
福島縣小名濱町 電話四八番
油槽所（常磐線泉驛前
海岸給油所（大津港、平潟港、江名濱
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所 電話八二四番

當分は決定出來ぬ 磐女の入學考査方針

正木校長獨自の立案内容は？

受驗難に ～悩みは續く～

學校、兒童、父兄三位一体の悩みたる男女中等學校入學試驗に關し定員に一倍半する志望者數から縣下の受驗難校に數へられてゐる磐中が、人物考査上國語、算術の二科目に就て筆問を課する旨既報の如く、時節柄各方面の關心事として之亦同樣受驗難校たる磐女の考査方法如何は相手が精神・肉体共に纖弱な少女丈けに非常なる注意を以て成行きを待たれて居るが、右に就き正木校長は語る

過般催された縣下女學校長會議の結果、來春二月初旬迄に各自が夫々自校の實情に即する案を立て之により最後の決定をする事になつてゐるから今の處自分として發表し得る何物も無い。云々

之によると其の内容は結局學期掉尾の三月頃ならでは判明せぬわけで、受驗生としては差當り何處をつかれても差支無い迄に萬全の準備が必要とある

知事と鐵相に 平小鐵促進意見呈出

昨日縣會で緊急建議採擇

平小鐵道敷設促進に關する縣會の動向は開會以來一般から成行きを刮目されてゐたが、昨八日緊急建議案として遠沼縣議外五名から提案された

（提案理由＝遠沼縣議）小名濱商港築港は來年三月を以て完成するが、之と連絡すべき平小鐵道は未だに着手されず、あだかもガソリン無き自動車の如き感がある、平小鐵道は小名濱商港と離らざるもので産業上重要なるものである事は勿論だが陸海相通ずる國防上また重要なるものであるから我々は速かに工事着手あらん事を切望するものである。實現要望に關する具體的方法は議長に一任せんとするもので、滿場の御贊成を希望する

これに次で贊成意見を述べく提案者の一人である（野崎縣議）平小鐵道は路線について地元の爭ひがあるので着手出來ないであるものであるが、我々は其何れとも主張するものでなく鐵道省の方針により決定一日も早く着手實現せん事を要望するもので此建議案の通過を希望すると贊成意見を述べる、これに對し岩崎議長より採否を議場に諮つた結果滿場一致これを採擇する事に決定、右建議案内容は左の如くである

平小鐵道建設工事促進の件

〔理由〕右平小鐵道問題は地方永年の懸案なるも未だ其の決定を見ず、今や小名濱商港が昭和十二年度を以て第一期工事完了し三千噸級の船舶が岸壁に繋留さるの日近きに際し之に呼應すべく陸上交通機關の完備せざるは地方交通産業發達上甚だ遺憾とする處にして將來小名濱商港の機能を充分に發揮せしめんとするには鐵道省により路線の決定を仰ぎ一日も速く該鐵道を敷設し西日本海と太平洋とを連繫せしむる新潟港と小名濱港との直通連絡は國防上産業上蓋し頗る緊切至大なる關係を有するものと信ず

右府縣制第四十四號に依り知事並に鐵道大臣に意見書呈出致度此段及建議候也

昭和十二月十二月八日

△提出者 遠沼龍輔 小野晋平 關内正一 野崎滿藏 草野三郎 小松章

△贊成者 大木代吉 大内一郎 渡邊祐之 物江浩 馬場長一郎 川田正智

福島縣會議長 小松茂藤治殿

丹野セツ 轉向 上申書

この度共産主義者としての過誤の一切を清算し共産主義を放棄し、こん後は忠良なる市民として一切の社會運動に絶對關係することなく生活し永い間苦勞と心配をかけた、親兄弟に對し迷惑を及ぼした親類並に社會一般に對し過誤をあらため、ひたすら日本人民として正しく生きて行くことを誓ひ更めて轉向を聲明いたしました

共産主義者としての過去の私の生活が親兄弟を泣かしめたか、この點私の市ヶ谷入所以來拾ヶ年間に亘つて言語に絶するものがあります。私は自分の受けねばならぬ過誤に對する完全なるつぐないを果す決心を以て仙臺の滿四ヶ年十ヶ月に亘る生活に於て親兄弟を思ひつゝ、ひたすら過誤の清算につとめました。親への孝、家族血族こうしたことを深く考へさせられました從つて日本の歴史を知り歴史の中に生きる自分は大和民族であることを意識しました共産主義が親への孝へなし得ない事を深く恥じて私は斷然共産主義を放棄する決心をいたしました私が今日まで轉向を聲明いたしませんでした理由は孝向に依る不幸につきあたらねばなりませんでした。それは私と渡邊の母との關係です、渡邊の母は一人淋しく私の出所を唯一に、凡ゆる犠牲を拂つて私のためにつくしてくれました、それで私の殘された任務は母への孝養と云ふ大きな責任を強く感じてゐました、こうした關係から私は自分の親兄弟の意見に反對して渡邊の母への心づかひから轉向を聲明せずに出所後の母との生活に依つて一切の社會運動から去る考へでした。出所後今日まで二ヶ月に渡る親兄弟に反對してまで凡ゆる努力をし母の諒解を得ることに心をくだきましたくしてやつと母に會ふ事が出來まして一ヶ月餘に渡り母の病氣と私の病氣の靜養のため山の中の湯場で一緒に生活し今後の私達の方針について語りました、私は母の前へ泣いて轉向することによつてのみ二人は今日生活して行くことが出來ることを話しました、然し渡邊の母は『政に對してすまぬから轉向しない、意識と理解のある人の下で一生を終りたい』と云つて私の下を去りました、私もこれ以上如何ともなし得ませんので止むなく涙を呑んで自分の初心を完徹するために、此際渡邊の母とは母のためにも私のためにも別れる事を決心いたしました。從つて今日までの母への心づかいも無になりましたので更めてこゝに轉向を聲明いたす樣な次第です

何卒以後よろしくお願ひいたします

今後は父母のすゝめに從ひまして、ミシンでも習つて生活して行きたいと考へております

右の如き通り書面を以つて一言申上げます

（原文のまゝ）

用務の幅湊に對應し 市の方面委員を增す

近く十八名案を稟請

平市役所では近來市の發展興隆に對する思はぬ陰影として社會課方面に於ける用務が漸次幅湊の傾向にありその顯著な例として昨報の如く來る二十日から二十六日迄の方面同情週間、或は同二十五日の大正天皇祭を卜して行はるゝ『方面感謝日』等近來之種の催しが極めて頻繁なるものあるので市當局豫ねての懸案として種々研究中であつた舊平町十八人 舊平窪二人の方面委員定數を舊市街地域を十四人に、新市域を四人に、合計十八人に增員し活動上遺憾無きを期する必要に迫られ各委員の擔當區域を變更し愈よ近く右增員を知事に稟請する筈である

因に現在の委員次の如し

小野園次郎 山崎淸三 酒井國三郎 薄葉己之松 猪狩庄平 岡田千藏 大森勇 門傳淸吾 鈴木寶雄 遠藤必光 金子金次 鶴田廣隆

賀狀特別扱ひ 平局で待機

事變下の年賀狀差出しはいま贊否兩論にわかれてゐるやうである、平局でも例年ならこの二十日から二十九日迄特別取扱ひを續けるが未だ本省から何らの通牒にも接して居らず。思案顏で居るが

——廢止すると云ふ通牒も入つてはゐませんから

と大体例年通り取扱ふものと待機の姿勢をとつてゐる

昭落前祝 同窓會

仙台高等工業磐城支部では今九日午後五時から市内谷口樓で南京陷落の前祝ひを兼ねた同窓會を開備、會場前に大看板を揚げて氣勢をあげた

時局講演 會場變更

支那事變時局講演會は十日午後一時から平第三小學校で開く筈だつたが都合で會場を聚樂館に變更講師は陸軍少將堀吉彦氏に前上海陸戰隊長植松練磨氏が加はる

北川呉服店荒しか

僞名五犯男捕はる

去月二十五日夜湯本町備中屋旅館に『郡山市虎丸呉服商安齋佐(三七)』と詐稱して泊り込み宿料六圓餘を踏倒して逃走した男が昨夜市内銀行四ツ角で平署菊池部長刑事に捕はれ取調べの結果山形市で數名共犯の詐欺團に加はつた

山形市小姓町生れ詐欺、恐喝、公務執行妨害前科五犯小林政太郎(三九)と判り仙台市内で贓品の呉服類を入質した事實もあるので既報市内研町北川呉服店に忍び込んで反物七十五反を搔つ拂つた燒切り泥の一味ではないかと目下追究中

虎眼受檢 市民の二割

市役所撲滅を期す

逐年增加の傾向にあるトラホームの豫防をはかり平市役所では云る一日來市内四醫師によつてこれが檢診を行つてゐたが昨八日で一と先づ終了した、受檢人員約六千名で全市民の約二割足らず、昨年もほゞ同數位であつたが依然市民が衛生觀念の乏しさを物語つてゐると云へよう

市役所では惡性のものに對しては割引券を發行しこれが撲滅をはかる

丹野セツ 飜然轉向

兩親の愛 迷夢を醒ます

聲明

九月末、秋風と共に宮城刑務所を出所、小名濱町本町の兩親のもとでひたすら謹愼の日を送つてゐたかつての『女赤の闘將』丹野セツ(三六)も遂に兩親の『愛の力』に甦つて飜然轉向を聲明、別項の如き上申書を昨八日八卷平署長の許に提出、善良な日本女性に還つた

セツは共產黨華かなりし頃當時赤の闘將として知られてゐた『渡政』こと渡邊政之助と内緣關係を結び日本共產黨婦人部長として地下に暗躍、去る昭和七年十月東京地方裁判所で懲役七年を言渡され去る九月三十日刑滿ちて宮城刑務所を出獄したもの

入所中渡政の母渡邊チヨツ(六〇)＝東京市牛込區富久町居住＝から再三非轉向のまゝ一緒に東京で暮して欲しいとの懇望に接したがセツの『田舍住ひ』の主張から意見が對立、遂に最近に至り已むなく別れ〴〵に暮すことゝなつてこの聲明に及んだものである

更にセツは轉向の動機は全く『兩親の愛の力』によるものであるとしみ〴〵述懷してゐると云ふ

出征前迄古河坑夫 戰死の松井君

去る二十五日上海戰線で壯烈な戰死を遂げた岩瀨郡白方村大字今泉字町内出身一等兵松井銀次郎君の一家は好間村北好間に移り同君は出征前まで古河炭礦に働いてゐた

頓死老婆に嫌疑

山田村生れ蛭田幸造(六七)は水戸市内八幡町舊常磐小學校跡の肥料小屋に自稱栃木縣那須郡太田町生れバタヤ人見よしを(七二)と同居中、よしを婆さんが七日夜頓死した、水戸署で取調べの結果よしを婆さんの腰部に大火傷の跡があるのに不審を抱かれ幸造は同署で取調べられてゐる

田人に幼女殺し

犯罪隱蔽 死体を燒く

田人村旅人字前山炭燒業舞木三郎(三六)は八日午前十一時頃内妻五十嵐コウ(三四)と連子のキヨ子(四)のことから喧嘩、棍棒でキヨ子を毆打、犯行をくらますため死体を炭燒小屋に運んで火を放ち、同小屋を燒いて變死したもの〻如く裝ふて植田署に屆け出たが、圓通部長の檢視によつて右の如き恐るべき犯行と判明、久和植田署長、平檢事局大脇檢事らの一行が急行したが現場は植田町から七里の山奥で詳細不明

米泥捕る

市内上平窪字富岡土工稻本淸次(三七)は去月十日以來同村鈴木多次郎方から鷄四羽を盜んだのを手始めに數軒からモミ一と俵餘を窃取、酒代としたこと發覺、平署に檢擧

社告

四倉支局長 佐藤稔

同方部に於ける通信、營業を擔當する事に相成り候に付宜敷御眷顧の程願上候

磐城新聞社

落磐

湯本町八仙入山炭礦後山夫佐藤義照(三六)は昨八日午前五時半頃第六坑内で作業中落磐死

江名俵米品評會

江名町農會主催で俵米品評會を來る二十一、二の二日間同町下神白農業倉庫で開催、二十二日午後二時から賞狀授與式擧行

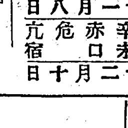
街の暮

『南京落城近し』の快ニュースがサッと暮の街に傳はるや、何處へ行つても此の話で持ち切りだ。氣分をジッとおさへつけてゐた市役所でもとう〳〵こらへ切れず昨報の如く紅提灯三千個を注文各區でも『足りない分は引受けた……』とばかり淒ましい勢ひ、お蔭で街の提灯屋さんは盆と正月が一度に來たやうな忙しさで『イヤとても張り合ひがあるですよ』と語る言葉も浮つ調子だ

た披露目

福濟から『どん子』十九歲、今迄浪江で鳴らした明朗な妓だとの評判

舊十一月八日　金曜　辛未　赤口　危　亢宿　新十二月十日



諸判定應需　東京市本鄉區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白 安閑として家居せんより外に活動するが吉▲二黑 商賣に家業に精進すれば自らいんしんすべき日▲三碧 相談契約等仲に入りて後日に面だふの起る日▲四綠 山間の谷水も集れば終に大河となるが如し▲五黃 八方に手を擴ぐれば收拾し能はぬ難みあり▲六白 勇氣を倍加して事に當れば進展を遂ぐべし▲七赤 確信なき事には手を出さぬが安全迷ふは凶▲八白 床にすへたる土臺磨たぶせども起上る力あり▲九紫 新計畫に吉なれど投資は八分に留むるが吉

十日（小名濱測候所發表）

滿潮 前九、二五 後八、二五　干潮 前三、一〇 後三、一五

廣告

東西會社の新商品　石鹸　齒刷子　齒磨　連鎖店にあり

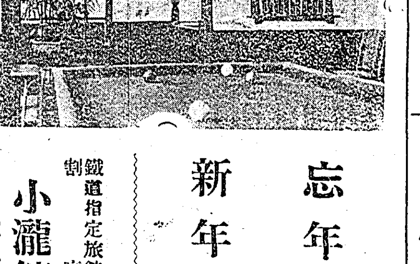
良い電球は 眼の護り

國產 トウランプ

おでん 一平（イッペイ） 電話二六三番

酒とマヅイ おでんの榮ちゃん 平市田町花ノ井 電話三三番

平市新川町 五十嵐產婦人科 電三六九



忘年會 新年會

鐵道指定旅館 割烹 小瀧鑛泉 電話小名濱一〇三

風味自慢 米屋の最中

平みやげ

七五三の御祝品に特に赤白最中右取揃へて御座います

平市五丁目 米屋もなか專門店 呼電二九〇番

シモヤケ家傳藥

是まではシモヤケは暖かくならねば治らぬものと諦めて居つたのが一日二、三回の御使用でグヅれたシモヤケも忘れた樣に治ります。

現今の塗藥と異り爰法により根本から除去するものであります。シモヤケは寒さの爲になるもので塗藥では決して治るものではありません、又クヅレタシモヤケに塗藥では塗布と同時に痛みを感じたりカユミを增したり致しますが、此藥は無刺戟の中に心地良い爰法により皮下の血行を良くし幼き御子樣方にも喜ばれて如何にクヅレたシモヤケでも完全に全治致す事保證致します。是非一度御試し下さい。

東京市丸井邦寶堂

福島 茨城 兩縣特約販賣 平市一丁目 伊藤石炭店 電話三四九番